



何かに情熱を注いでいる方を紹介します

私と消防団活動

やすかた
本多保固さん(昭和38年入団)
かずき
中川一喜さん(昭和51年入団)



▲本多保固さん(左)と中川一喜さん



▲3回目の県大会優勝報告に役場を訪れた際の写真。団員の後ろに写るポンプ車は、城辺町で2番目に配備された車両で心強い相棒でした。

▼今でも大切に保管されている現役時代の大会資料。ページをめくれば当時の熱気と思い出がよみがえります。



“情熱をかけた消防団活動への思い”

本多さんと中川さんは城辺方面隊第4分団(現:第2分団)で30年近くにわたり久良地区を守るため尽力しました。火事が発生すると全ての団員が一目散に詰所へ走り、近所の住人からは「消防署に負けるな!」と2階の窓から大声で鼓舞され、久良峠を下ってくる消防署のサイレンが聞こえると「早よ行かないけん!」とポンプ車のアクセルを踏んだという現役時代の記憶を昨日のここのように話すお二人。

消防操法にも力を入れていた第4分団は、愛媛県消防操法大会のポンプ車操法で3度の優勝。雨の日以外は練習に励み、「我が子が生まれる時は練習を休ましてもろた。その子がもう46歳やけん」と微笑む中川さんは全国大会に2回出場。全国大会の参加章バッジは思い出であり宝物です。中川さんは当時を振り返り、「活動が多く大変なこともありましたが、いい思い出になっています。歳の差関係なく親睦を深めることができるのも消防団の魅力」と話し、20歳先輩の本多さんと笑顔を見せました。

指揮者として県大会優勝、そして城辺町消防団長と職務を全うした本多さんは、「消防署の活動をサポートするという意識ではなく、消防団の自分たちで久良を守らなくてはならないという意識が強かった」と話します。「団員それぞれの頑張りはもちろんのこと、諸先輩方から受け継いだ情熱と地域からの支えのおかげで自分たちの活動を行うことが出来た」と、地域との間に築かれた信頼関係について語りました。

時代や環境とともに変化している消防団の活動。地域の消防・防災における要であることを踏まえ、時代は違えど地域に密着した活動を後世に伝えていきたいお二人の熱いお話は続きました。

編集後記

7月から8月にかけて、総体や部活動での全国大会出場者、春の叙勲受章者など、町で活躍されているたくさんの方取材する機会に恵まれました。幅広い年代の方が、町を盛り上げてくれていると感じます。

広報係として、そんな皆さんの生き生きした姿をお届けし、私たちの町にはこんなに素敵な人たちがいるんだよ!とこれからもお伝えしていきたいと思います。

ドラマ『下町ロケット』に出てきそうな工場内は、オイルと塗料が入り混じり個人的に最高。ガソリンスタンドの匂いが好きな人なら共感してもらえるかもしれません。

堺歯車さんの工場内をカメラ片手に取材させていただきましたが、職人さんの真剣な眼差しと熟練の手さばきが圧巻でした。こんな時、つい見入ってしまう私の悪いクセ。直そう直そうと早1年半です。

愛南町の世帯数と人口
令和5年8月1日現在

世帯数	9,956世帯	(+1世帯)
人口	19,206人	(-24人)
男	9,098人	(-19人)
女	10,108人	(-5人)
愛南町の高齢化率	46.6%	
※ () 内は前月比		
●10年前 同月の人口	24,177人	

編集・発行

愛南町役場総務課 〒798-4196 愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲 2420 番地 電話：(0895)72-1211 FAX：(0895)72-1214

<https://www.town.ainan.ehime.jp/>